

農業と環境

総合学科

教科	農業	単位数	4単位	対象	2年次	選択群	J群	
使用教科書	農業と環境 (実教出版)			副教材等		履修	必履修・ 選択	
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路		
<p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業や農業関連産業を通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを旨とします。</p>			<p>・農業と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ・農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>			<p>・体を動かすことが好きなこと、汚れることが平気で虫などに抵抗がないことが条件です。 ・農業大学校、農学部のある大学や短大への進学を希望する生徒は履修しましょう。</p>		
学年 の 間 計 画	月	単元名	項目	学習内容				
	4月	第1章 農業と環境を学ぶ	1 農業学習とは何か	(1) 生物を育てる学習 (2) 環境を調べる学習				
	5月		第3章 栽培と飼育の基礎	2 農業と環境の学び方	(1) 農業学習の特徴 (2) プロジェクト学習とその流れ			
	6月	1 作物の特性と栽培のしくみ		(1) 生活の中の作物 (2) 作物の自然分類 (3) たねと発芽・たねまき (4) 成長のしくみと管理				
	7月		2 作物をとりまく環境とその管理	(1) 作物栽培と環境 (2) 作物の生育と大気環境				
	9月	第4章 栽培と飼育と環境のプロジェクト	1 農業と環境のプロジェクト	(1) 農業と環境のプロジェクトの実際 (7) ハクサイの栽培と利用 (8) ダイコンの栽培と利用 (10) 花壇用草花の栽培と利用				
	10月		第2章 私たちの暮らしと農業・農村	1 人間と植物・動物とのかかわり	(5) 私たちをとりまく環境 (11) 生物多様性の保全と利用			
	11月	2 農業と食料供給		(1) 人間と農業 (3) 農業・技術と食料生産				
	12月	3 農業・農村の役割		(1) 食料の生産・供給機能 (2) 地域活性化の原動力				
	1月	第1章 農業と環境を学ぶ	4 これからの社会と農業・農村	(2) これからの農業・農村 (3) 持続可能な農業の維持と発展 (4) 環境保全と農業				
	2月		3 学校農業クラブ活動	(1) 学校農業クラブ活動の目標 (2) 学校農業クラブの組織と活動				
	3月							
	学習方法	<p>【予習】 学習内容の把握、準備物等の確認をしておきましょう。 【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない内容は、下線等を引き、早めに質問しましょう。 【復習】 その日に学習した内容について、きちんと記録を残しましょう。また、疑問点等があれば必ずその時間に解決するように心がけましょう。</p>						
	評価 の 観 点 ・ 評 価 規 準 ・ 評 価 方 法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
農業と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。		農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。		農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。				
評価方法		第1・2学期	第3学期	年度末				
A：知識・技能（考査・小テスト、実習等） B：思考・判断・表現（考査、課題・レポート等） C：主体的に学習に取り組む態度（ノート・提出物・授業（実習）態度等）		A：40点 B：30点 C：30点	A：40点 B：30点 C：30点	1・2・3学期の平均				
備考								

総合実習

総合学科

教科	農業	単位数	4単位	対象	3年次	選択群	N群		
使用教科書					副教材等			履修	必履修・ 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路			
<p>農業の総合的な技術を体験的に学習する科目で、農業の各科目と関連させて学習する共通的な科目です。果樹、草花、野菜、食品加工の4部門を体験的に学習します。2時間続きで授業がある日は、専攻別の実習を行い、1時間のみの時は、各部門をローテーションして実習を行います。</p>			<p>・農業の各分野を体験的に学習することで、総合的な技術が身に付く。 ・農業の経営と管理について理解を深めることができる。 ・管理能力や企画力など、農業の各分野の改善を図る実践的な能力と態度が身に付く。</p>			<p>・2年次に農業科目を1科目以上履修しておく必要があります。 ・農業自営や、農学系への進学を考えている人に適しています。 ・施設、設備の関係上、30名が上限となります。</p>			
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目		学 習 内 容				
	4月		<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション 班分け（専攻別） ・専攻別実習（2時間授業の日） 4班のローテーション実習（1時間ずつの授業の日） 		<ul style="list-style-type: none"> ・果樹：清美タンゴール、サンフルーツ、ニューサマーオレンジ収穫 温州ミカン、晩柑類摘果 ・草花：ポチュカ、サルビア、インパチェンス等の栽培管理 鉢物管理、観葉植物の繁殖 ・野菜：夏野菜（モロ、スガ、トマト、ナス等）の栽培管理 ・加工：ジャム類、酸乳飲料製造 				
	5月								
	6月								
	7月								
	9月		<ul style="list-style-type: none"> ・専攻別実習（2時間授業の日） 4班のローテーション実習（1時間ずつの授業の日） 		<ul style="list-style-type: none"> ・果樹：仕上げ摘果、温州ミカン収穫 ・草花：ハンジ苗栽培管理、シクラマ、 ポインセチア等の鉢物管理 ・野菜：モロ、タネキ苗、ダイコン栽培管理 ・加工：クッキー、ジャム類の製造 				
	10月								
	11月								
	12月								
	1月		<ul style="list-style-type: none"> ・専攻別実習 		<ul style="list-style-type: none"> ・果樹：伊予柑収穫 ・草花：用土作り、鉢物管理、ポチュカ挿し芽 ・野菜：タネキ、水耕トマト栽培管理、育苗床準備、 堆肥作り ・加工：ジャム類の製造 				
	2月								
	3月								
学習方法	<p>【予習】 実習を行う場合は、準備物、作業内容を確認しておきましょう。 【授業】 説明をよく聞き、安全に実験・実習ができるように努めましょう。 【復習】 その日に学習した内容について、きちんとした記録を残しましょう。また、疑問点等があれば必ずその間に解決するように心がけましょう。</p>								
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の技術や知識を体系的・系統的に理解するとともに、関連技術を身に着けるようにする。 ・実習、実習に意欲的な態度で臨む。 			<ul style="list-style-type: none"> ・持続的農業の進展や農産物流通の学習を通して経営や管理の改善に必要な管理能力、企画力やコミュニケーション能力が身に付く。 			<ul style="list-style-type: none"> ・農業各分野の実際の、体験的な学習を通して、職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ共同的に取り組む態度を養う。 		
	評価方法			第1・2学期		第3学期		年度末	
<p>A：知識・技能（実習等） B：思考・判断・表現（課題・レポート等） C：主体的に学習に取り組む態度（記録簿・レポート・授業（実習）態度等）</p>			<p>A：40点 B：30点 C：30点</p>		<p>A：40点 B：30点 C：30点</p>		<p>1・2・3学期の平均</p>		
備考									

野 菜

総合学科

教 科	農 業	単位数	4 単位	対象	2 年次	選択群	K 群	
使用教科書	野 菜 (実教出版)			副教材等		履修	必履修・ 選択	
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路		
野菜の栽培と経営に必要な知識と技術を学びます。また野菜の特性や栽培に適した環境について理解し、品質と生産性の向上を図る能力と態度を身に付けます。			・トマトを苗から収穫するまで栽培し栽培の知識や技術を身に付ける。 ・野菜の生理や生態、栽培環境の知識を身に付ける。 ・苗の生産技術について、その知識や技術を身に付ける。			・体を動かすことが好きなこと、汚れることが平気で虫などの抵抗がないことが条件です。 ・夏の40℃近いハウスでの実習や冬の寒い時の外での実習に耐えられることが条件です。		
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容				
	4月	第1章 農業生産の 役割と動向	1 野菜とは	1 野菜の種類と特徴 2 野菜の消費 3 野菜の生産と供給 4 野菜の安全性				
	5月	第4章 果実を利用 する野菜の栽培	1 トマト	1 定植前の準備 (播種・育苗管理・畝立て)				
	6月			2 定植 3 芽かき 4 受粉				
	7月			5 摘心 6 収量予想 7 水管理 8 病虫害防除 9 トマトの収穫・収量調査 10 品質調査				
	9月	第2章 野菜の生育 特性と栽培環 境の調節技術	1 野菜の生育と生理	1 野菜の生育 2 種子と発芽 3 茎と葉の成長 4 光合成の仕組みと物質の生産 5 根の発達と肥大 6 葉菜類の花芽分化と抽だい 7 果菜類の花芽分化と果実の発育 8 休眠				
	10月			2 野菜の栽培環境と生育調節	1 光環境とその調節 2 温度環境とその調節 3 風・ガス環境とその調節 4 地下部の環境とその調節			
	11月		第3章 野菜の育苗		1 育苗の目的と方法 2 育苗技術の実際と応用	1 育苗の意義と良苗の条件 2 育苗・苗生産の歴史と現状 3 野菜苗の育苗方法 1 育苗培地の種類と作成方法 2 播種および個々の育苗管理技術 3 接ぎ木苗技術 4 セル成型苗とその利用 5 栄養系苗生産とバイオテクノロジー 6 企業による苗生産・苗販売		
	12月							
	1月							
	2月							
	3月							
学習方法	【予習】 学習内容を把握し、準備物等を確認しておきましょう。 【授業】 学習内容の説明をよく聞き、理解に努めましょう。また、分からないことは早めに質問しましょう。 【復習】 その日に学習したことについて、きちんとした記録を残しましょう。また、疑問等があれば必ずその時間に解決するよう心がけましょう。							
評 価 の 観 点 ・ 評 価 規 準 ・ 評 価 方 法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	・野菜栽培の基礎的な知識、技術を身に付け、農業生物の育成に関するプロジェクト学習を合理的に計画し、その知識、技術を身に付け、適切に活用している。		・野菜の品種と特性、栽培環境の要素、管理、評価に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を適切に表現している。		・野菜の生産や経営について興味関心を持ち、経営発展につながるよう取り組み、持続可能な農業の振興や社会貢献に主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。			
	評価方法		第1・2学期	第3学期	年度末			
A：知識・技能 (考査・小テスト、実習)		A：40点	A：40点		1・2・3学期の平均			
B：思考・判断・表現 (考査、課題・レポート等)		B：30点	B：30点					
C：主体的に学習に取り組む態度 (ノート・提出物・授業(実習)態度等)		C：30点	C：30点					
備考	・農場の面積に限りがあるため、選択生が20名を超えると座学中心となる可能性が高い。							

果樹

総合学科

教科	農業	単位数	2単位	対象	2年次	選択群	L群		
使用教科書	果樹（実教）			副教材等			履修	必履修・ 選択	
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路			
果樹についての生理・生態および栽培に必要な知識と新しい栽培技術を座学、実習を通して学習します。			<ul style="list-style-type: none"> 果樹の栽培と経営に必要な知識と技術を習得する。 果樹の特性や栽培に適した環境を理解する。 品質と生産性の向上を図る能力や態度が身に付く。 			<ul style="list-style-type: none"> 野菜、草花とともに農業科目の中で基礎となる科目です。 農業後継者や、農業大学校進学希望者は、履修することを進めます。 			
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容					
	4月	第1章 果樹の種類と果樹栽培の動向	1 果樹の種類と果実の利用	1 果樹の種類と分類 2 果樹の構造					
	5月		2 果樹栽培の動向	1 果実の生産と消費の現状 2 果実栽培の将来					
	6月	第2章 果樹の生育と栽培環境	1 果樹の生育と生理	1 果樹の生育とその一生					
	7月		2 果樹栽培と環境	2 根・枝・葉の成長 3 樹体の成長と炭水化物 4 花芽や葉芽の分化と発達 5 開花と結実					
	9月	第3章 果樹の栽培管理	1 結実調整	1 生育と環境要因(水・栄養・土壌)					
				1 摘果					
				2 隔年結果とその防止					
				2 水分管理 (土壌水分・灌水・排水)					
				3 栄養と施肥					
	10月			1 土壌管理(表面の管理・深耕と有機物・化学的性質の改良)					
	11月			1 施肥の時期と方法					
12月			1 病害虫の防除						
1月			6 苗木の育成	1 繁殖方法と苗木の生産					
2月			7 開園の更新	2 苗木の植え付け					
3月				1 園地の立地条件 2 園地の造成 3 開園の実際 4 改植による更新					
学習方法	<p>【予習】 教科書をよく読んで理解しましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。分からないところは積極的に質問しましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容は、必ず覚えましょう。また、実習後は、ノートに作業内容や使った道具、感想などを細かく記録しておきましょう。</p>								
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
	<ul style="list-style-type: none"> 果樹の基本的な栽培方法について、体系的・系統的に理解するとともに、関連技術を身に着けるようにする。 果樹の生理・生態的な特性や栽培環境及びそれらと生育の相互関係を理解する。 		<ul style="list-style-type: none"> 果樹栽培を通して課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養い農業の役割を環境と調和した、持続的な農業生産について考える。 			<ul style="list-style-type: none"> 実践的な果樹栽培の体験を通して、職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ共同的に取り組む態度を養う。 			
	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末		
A：知識・技能（考査・小テスト、実習等）		A：40点		A：40点		1・2・3学期の平均			
B：思考・判断・表現（考査、課題・レポート等）		B：30点		B：30点					
C：主体的に学習に取り組む態度（ノート・提出物・授業（実習）態度等）		C：30点		C：30点					
備考									

果樹

総合学科

教 科	農 業	単位数	3 単位	対象	3 年次	選択群	M群	
使用教科書	果樹 (実教)			副教材等		履修	必履修・ 選択	
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路		
柑橘 (温州ミカン、デコポン、清見) の新しい栽培技術と経営に必要な知識を座学、実習を通して学習します。			<ul style="list-style-type: none"> ・柑橘の栽培と経営に必要な知識と技術を習得する。 ・柑橘の特性や栽培に適した環境を理解する。 ・品質と生産性の向上を図る能力や態度を育てる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・農業後継者や、農業大学校進学希望者は、履修することを勧めます。 		
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容				
	4月	第4章 カンキツ類	1 栽培上の特性と品種	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培の現状と特性 ・品種の特性と選び方 ・日向夏や甘夏の収穫実習 				
	5月		2 生育のすがたと栽培管理	<ul style="list-style-type: none"> ・生育のすがた ・栄養成長と生殖成長 				
	6月		3 栽培管理	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌管理 ・施肥 ・摘果 				
	7月							
	9月		4 収穫・選別・出荷・貯蔵と加工	<ul style="list-style-type: none"> ・病害虫とその防除 ・生理障害とその対策 ・病害虫とその防除、生理障害とその対策 ・収穫実習 ・選別・出荷 				
	10月							
	11月			3 栽培管理	<ul style="list-style-type: none"> ・仕立て方および選定 			
	12月		5 経営の特性と改善	<ul style="list-style-type: none"> ・園地の改植 ・経営の分析と改善 				
	1月	第12章 高校生による実践活動 ・課題学習	1 カンキツ類の生産と加工・販売	<ul style="list-style-type: none"> ・活動実践の紹介 				
	2月							
	3月							
学習方法	<p>【予習】 教科書をよく読んで理解しましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。分からないところは積極的に質問しましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容は、必ず覚えましょう。また、実習後は、ノートに作業内容や使った道具、感想などを細かく記録しておきましょう。</p>							
評 価 の 観 点 ・ 評 価 規 準 ・ 評 価 方 法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	<ul style="list-style-type: none"> ・実践的な柑橘栽培の体験を通して、体系的・系統的に理解するとともに、関連技術を身に着けるようにする。 ・果樹の生理・生態的な特性や栽培環境及びそれらと生育の相互関係を理解する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・果樹栽培を通して地域農業の役割を考え、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養い農業の役割を環境と調和した、持続的な農業生産について考える。 		<ul style="list-style-type: none"> ・実践的な果樹栽培の体験を通して、職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ共同的に取り組む態度を養う。 			
	評価方法		第1・2学期	第3学期	年度末			
A：知識・技能 (考査・小テスト、実習等)		A：40点	A：40点	1・2・3学期の平均				
B：思考・判断・表現 (考査、課題・レポート等)		B：30点	B：30点					
C：主体的に学習に取り組む態度 (ノート・提出物・授業(実習)態度等)		C：30点	C：30点					
備考								

草 花

総合学科

教 科	農 業	単位数	2 単位	対象	2 年次	選択群	H 群							
使用教科書	草花（実教）			副教材等		履修	必履修・ 選択							
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路								
草花の栽培や経営に必要な知識と技術を学びます。また草花の特性や栽培に適した環境などについて理解し、品質と生産性の向上を図る能力と態度を身につけます。			<ul style="list-style-type: none"> ・草花の生産と経営に必要な知識と技術を身につける。 ・草花の特性や生産に適した環境について理解する。 ・品質と生産性の向上及び経営の改善を図る能力と態度を身につける。 			<ul style="list-style-type: none"> ・草花の栽培実習に興味がある生徒向けの科目です。 ・農学系への就職・進学、またはフラワーデザインやブライダル系への進路を考えている生徒に履修を勧めます。 								
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容										
	4月	第1章 草花を学ぶにあたって	1 草花とプロジェクト学習	1 プロジェクト学習とは 2 プロジェクトの進め方 3 草花におけるプロジェクト学習										
	5月	第2章 草花生産と消費の動向	1 草花園芸の特徴	1 草花の生産と経営 2 草花の種類（植物学的分類、園芸的分類） 3 草花の生産形態										
	6月		2 草花生産と消費の動向	1 草花生産の動向 2 消費の動向										
	7月	第4章 草花の特徴と栽培技術	1 草花の生育と環境	1 草花の一生 2 根の成長と養水分の吸収 3 シュートの成長と光合成 4 花芽（花序）分化と発達										
	9月		2 品種改良と繁殖	1 草花の品種と品種改良 2 品種改良の手順と方法 3 草花の繁殖方法 4 種子繁殖（種まきの方法・育苗） 5 栄養繁殖（さし木・つぎ木・株分け）										
	10月		3 草花の生育と栽培技術	1 草花の栽培と土・水・肥料 2 草花の栽培管理										
	11月			1 草花の利用の意義 2 草花の利用 3 草花を用いた健康増進										
	12月	第3章 生活と草花の利用	1 草花の多面的利用	1 草花の品種と特性、栽培環境の要素、管理、評価に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な技術を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。										
	1月		2 園芸デザイン	1 園芸デザインと草花の装飾的特性 2 園芸デザインの基本 3 園芸デザインの実際										
	2月		主体的に学習に取り組む態度											
	3月	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">知識・技能</td> <td style="width: 33%;">思考・判断・表現</td> <td style="width: 33%;">主体的に学習に取り組む態度</td> </tr> <tr> <td>・草花栽培の基礎的な知識、技術を身に付け、農業生物の育成に関するプロジェクト学習を合理的に計画し、その知識、技術を身に付け、適切に活用している。</td> <td>・草花の品種と特性、栽培環境の要素、管理、評価に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な技術を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。</td> <td>・草花の生産や経営について興味関心を持ち、経営発展につながるよう取り組み、持続可能な農業の振興や社会貢献に主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。</td> </tr> </table>							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	・草花栽培の基礎的な知識、技術を身に付け、農業生物の育成に関するプロジェクト学習を合理的に計画し、その知識、技術を身に付け、適切に活用している。	・草花の品種と特性、栽培環境の要素、管理、評価に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な技術を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	・草花の生産や経営について興味関心を持ち、経営発展につながるよう取り組み、持続可能な農業の振興や社会貢献に主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度											
・草花栽培の基礎的な知識、技術を身に付け、農業生物の育成に関するプロジェクト学習を合理的に計画し、その知識、技術を身に付け、適切に活用している。	・草花の品種と特性、栽培環境の要素、管理、評価に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な技術を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	・草花の生産や経営について興味関心を持ち、経営発展につながるよう取り組み、持続可能な農業の振興や社会貢献に主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。												
【予習】	学習内容の把握、準備物等の確認をしておきましょう。													
【授業】	説明をよく聞き、理解に努めましょう。分からないことはその場で質問し、解決させましょう。													
【復習】	ノートを整理し、学習内容をきちんと記録しましょう。													
評 価 の 観 点 ・ 評 価 規 準 ・ 評 価 方 法	評価方法		第1・2学期	第3学期	年度末									
	A：知識・技能（検査・小テスト、実習等）		A：40点	A：40点	1・2・3学期の平均									
	B：思考・判断・表現（検査、課題・レポート等）		B：30点	B：30点										
	C：主体的に学習に取り組む態度（ノート・提出物・授業（実習）態度等）		C：30点	C：30点										
備 考														

草 花

総合学科

教 科	農 業	単位数	2 単位	対象	3 年次	選択群	T②群		
使用教科書	草花（実教）			副教材等		履修	必履修・ 選択		
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路			
草花の栽培や経営に必要な知識と技術を学びます。また草花の特性や栽培に適した環境などについて理解し、品質と生産性の向上を図る能力と態度を身につけます。			<ul style="list-style-type: none"> 草花の生産と経営に必要な知識と技術を身につける。 草花の特性や生産に適した環境について理解する。 品質と生産性の向上及び経営の改善を図る能力と態度を身につける。 			<ul style="list-style-type: none"> 草花の栽培実習に興味がある生徒向けの科目です。 農学系への就職・進学、またはフラワーデザインやブライダル系への進路を考えている生徒に履修を勧めます。 			
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容					
	4月	第4章 草花の特徴 と栽培技術	1 草花の生育と環境	1 草花の一生 2 根の成長と養水分の吸収 3 シュートの成長と光合成 4 花芽（花序）分化と発達					
	5月		2 品種改良と繁殖	1 草花の品種と品種改良 2 品種改良の手順と方法 3 草花の繁殖方法 4 種子繁殖（種まきの方法・育苗） 5 栄養繁殖（さし木・つぎ木・株分け）					
	6月	第4章 草花の特徴 と栽培技術		3 草花の生育と栽培技術	1 草花の栽培と土・水・肥料 2 草花の栽培管理				
	7月			4 生産施設と栽培環境の調節	1 施設の機能・構造とその利用 2 環境調節設備の利用 3 複合環境制御				
	9月	第6章 鉢もの生産	1 鉢もの生産の特色	1 鉢もの生産の経営 2 栽培管理の特色					
	10月			3 花鉢もの	1 花鉢ものの種類と特性				
	11月		第7章 花壇用草花 生産		3 花壇用草花の栽培	1 花壇用草花の利用 2 花壇用草花栽培の計画 3 花壇用草花栽培の実際			
	12月	1 月		2 月	3 月				
	1月								
	2月								
	3月								
学習方法	<p>【予習】 学習内容の把握、準備物等の確認をしておきましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。分からないことはその場で質問し、解決させましょう。</p> <p>【復習】 ノートを整理し、学習内容をきちんと記録しましょう。</p>								
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
	<ul style="list-style-type: none"> 草花栽培の基礎的な知識、技術を身に付け、農業生物の育成に関するプロジェクト学習を合理的に計画し、その知識、技術を身に付け、適切に活用している。 		<ul style="list-style-type: none"> 草花の品種と特性、栽培環境の要素や管理、評価に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な技術を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。 		<ul style="list-style-type: none"> 草花の生産や経営について興味関心を持ち、経営発展につながるよう取り組み、持続可能な農業の振興や社会貢献に主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。 				
	評価方法		第1・2学期	第3学期	年度末				
A：知識・技能（考査・小テスト、実習等） B：思考・判断・表現（考査、課題レポート等） C：主体的に学習に取り組む態度（ノート・提出物・授業態度・実習態度等）		A：40点 B：30点 C：30点	A：40点 B：30点 C：30点	1・2・3学期の平均					
備考									

栽培と環境

総合学科

教科	農業	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	S①群
使用教科書	栽培と環境 (実教出版)			副教材等		履修	必履修・ 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
栽培作物と環境の関係について科学的に捉え、適切な栽培方法を選択できるよう、気象・土壌・生物的要素・施設型農業の各分野についてについて学習する。今後の農業の現場で求められる技術や思考を養えるようを学習する。			<ul style="list-style-type: none"> 栽培と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 栽培と環境について農業生物の栽培や管理に応用できるようみずから学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的にとり組む態度を養う。 			特に条件はありませんが、農業自営、農学系への進学を考えている人に適しています。	
学習の年間計画	月	単元名	項目	学習内容			
	4月	第1章 栽培と環境	1 自然環境のなりたち	1 なぜ自然環境の理解が必要なのか 2 自然環境の要素			
	5月		2 栽培環境のなりたち 3 栽培環境と栽培技術	1 栽培環境の特性 2 さまざまな栽培環境 1 栽培環境に適した作目と技術方法の選択 2 栽培環境の改良 3 農業が環境に与える影響			
	6月		第2章 栽培植物の 発育・生理 と栽培技術	1 作物の種類と特徴 2 作物の一生 3 作物の発育と成長の調節 4 作物体内の生理作用	1 作物の特徴 2 作物の種類と分類のしかた 1 種子と発芽 2 シュートと根の成長 1 環境に応じた作物の生育 2 植物ホルモンの働き 1 呼吸と光合成 2 窒素同化 3 その他の植物栄養 4 植物体内での水と物質の移動		
	7月	5 作物の成熟と老化 6 栽培技術		1 果実の形成と成熟 2 シュートや花の老化 1 作物の栽培 2 作付体系と作型距離測量器具			
	9月	第3章 栽培環境— 気象的要素	1 気象と気候	1 気象と気象要素 2 気象のスケールと気候 3 日本の気候			
	10月		2 気象と作物の生育 第4章 栽培環境— 土壌的要素 1 土壌の役割	1 作物栽培と気候 2 気象災害とその対策 1 土壌とは 2 母材の種類 3 土壌の生成 4 さまざまな土壌 5 農地土壌			
	11月	第5章 栽培環境— 生物的要素	2 土壌の機能 1 農地の生物群集	1 土性 2 土壌の保水性と通気性 1 農地の生物群集とその特徴 2 農地の有害生物 3 農地の生物的多様性の重要性			
	12月		2 害虫害とその防除 3 作物病害とその防除 4 雑草害とその防除	1 害虫の種類 2 害虫の被害と生態 3 害虫の防除法 1 病原体の種類 2 病原体の生態と被害 3 植物病の防除法 1 雑草の種類 2 雑草の生態と被害 3 雑草の防除法			
	1月	第7章 環境に配慮 した栽培の 実践	1 農業の環境への影響 2 農業の物質循環機能	1 環境問題の進行 2 農業の公益機能 1 生態系とその機能 2 農業生態系			
	2月						
	3月						
	学習方法	<p>【予習】 学習内容の把握、準備物等の確認をしておきましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない内容は、下線等を引き、早めに質問しましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容について、きちんと記録を残しましょう。また、疑問点等があれば必ずその時間に解決するように心がけましょう。</p>					
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> 栽培植物のプロジェクト学習の過程における調査、観察、診断、実験などを通して、生育と環境要素との関係に関する知識と技術、栽培環境の管理と改善に必要な知識と技術を体系的・系統的に理解している。 		<ul style="list-style-type: none"> 栽培植物の生育と環境要素の実験や診断を通して、栽培環境に関する課題を発見し、環境に配慮した栽培管理と法令遵守など、職業人に求められる倫理観をもって、科学的な根拠などに基づき創造的に解決する力を養っている。 		<ul style="list-style-type: none"> 栽培と環境の学習を通して、環境に負荷をかけない栽培技術や、安全で安心できる栽培植物の生産や環境の保全を目指して、自分の意思や判断に基づき、主体的かつ協働的にとり組む態度を身につけている。 		
	評価方法		第1・2学期	第3学期	年度末		
	A：知識・技能(考査・小テスト、実習等) B：思考・判断・表現(考査、課題レポート等) C：主体的に学習に取り組む態度(ノート・提出物・授業(実習)態度等)		A：40点 B：30点 C：30点	A：40点 B：30点 C：30点	1・2・3学期の平均		
備考							

農業経営

総合学科

教科	農業	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	S①群	
使用教科書	農業経営（実教）			副教材等			履修	必履修・ 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路		
農業経営の設計と管理に必要な知識と技術を学びます。また農業経営の知識と運営、農業経営をとりまく環境、販売計画などのマーケティングの必要性を理解し、経営の改善を図る能力や態度を学びます。			<ul style="list-style-type: none"> 学校の農場を利用して、生産の計画から販売までの知識や技術を身に付ける。 経営管理の改善を図れる知識や能力、態度を育てる。 日本の農業の現状や農業の役割について考える態度を育てる。 			<ul style="list-style-type: none"> 農業後継者を目指す生徒は実際の経営に携わるので、履修することをお勧めします。 農業に興味があり、体を動かすことが好きな生徒に勧めます。 		
学年 の 間 計 画	月	単元名	項目	学習内容				
	4月	第1章 農業の動向 と農業経営	1 農業・農村と食料・環境	<ul style="list-style-type: none"> 農業農村の機能と役割 食料と農業 農業と環境保全 持続的農業の進展と有機農産物 				
	5月		2 こんにちの農業経営					
	6月	第2章 農業経営の 組織と運営	1 農業経営の主体	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな農業経営 農業経営の目標 生産と経営の要素 生産要素の特性と利用 農業経営組織 				
	7月							
	9月		2 農業経営の運営					
	10月	第3章 農業経営と 情報	1 農業経営と情報の収集・活用	<ul style="list-style-type: none"> 農業経営の集团的取組 農業法人経営 経営者能力と管理運営 農業経営の集約化 情報収集とその活用 農産物流通と市場 農産物流通とマーケティング 				
	11月		2 農業のマーケティング					
	12月							
	1月		3 農業経営の社会的環境					
	2月			<ul style="list-style-type: none"> 農業経営者のマーケティング 農業経営にとっての地域 				
	3月							
学習方法	<p>【予習】 学習内容や実習の計画に従い、準備物等を確認しておきましょう。</p> <p>【授業】 学習内容や実習の説明をよく聞き、理解に努めましょう。分からないことは早めに質問しましょう。</p> <p>【復習】 自分で計画し作業をするので、作業の反省をきちんとしましょう。また、実習後は作業内容や使用した道具、感想などを細かく記録しましょう。</p>							
評価 の 観 点 ・ 評 価 規 準 ・ 評 価 方 法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	<ul style="list-style-type: none"> 日本の農業の現状を体系的・系統的に理解するとともに、関連技術を身に着けるようにする。 日本の自給率、高齢化、過疎化等の農業問題に関心をもち理解する。 		<ul style="list-style-type: none"> 持続的農業の進展や農産物流通の学習を通して、実際の農業経営について考える態度を育てる。 		<ul style="list-style-type: none"> 農業経営の診断および経営改善の方法などを理解し、職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ共同的に取り組む態度を養う。 			
	評価方法		第1・2学期	第3学期	年度末			
A：知識・技能（考査・小テスト、実習等）		A：40点	A：40点	1・2・3学期の平均				
B：思考・判断・表現（考査、課題・レポート等）		B：30点	B：30点					
C：主体的に学習に取り組む態度（ノート・提出物・授業（実習）態度等）		C：30点	C：30点					
備考	<ul style="list-style-type: none"> 座学ばかりではなく農場実習などを交えて、農業を考えていく。 							

農業機械

総合学科

教科	農業	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	P①群		
使用教科書	農業機械（実教）			副教材等			履修	必履修・ 選択	
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路			
<p>農業機械の運転操作の実習を通して、機械の構造や安全運転に関する知識や技術を学びます。 実習を通して機械の構造と作業上の特性を理解し、農業機械の効率的な利益を図る能力と態度を身に付けます。</p>			<ul style="list-style-type: none"> 農業機械の構造や特性を理解し、作業における安全確保に必要な知識、技能を身に付ける。 安全な運転操作や合理的な利用に必要な知識、技能を習得する。 			<ul style="list-style-type: none"> 特に制限はありませんが、農業機械の操作や構造に興味関心のある生徒に適しています。 			
学年 の 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容					
	4月	第1章 農業機械の 役割	1 農業機械化の意義	1 農業機械の特徴 2 機械化と農業経営					
	5月		2 農業機械の利用とその現状	1 農業機械の種類と利用 2 農業機械の発展と現状					
	6月	第2章 原動機	2 内燃機関	1 種類					
	7月			2 4サイクルガソリンエンジンの作動原理 3 4サイクルガソリンエンジンの構造 4 2サイクルガソリンエンジン					
	9月	第3章 トラクタ	1 乗用トラクタ	1 種類 2 基本運転と操作 3 作業の安全確保 4 構造と機能 5 トラクタの性能 6 点検整備					
	10月			2 歩行用トラクタ	1 種類 2 操作 3 構造と整備				
	11月		第7章 農業機械による自動化		1 作業工程の自動化 2 農業機械の高度化	1 自動化の概要 2 自動化のしくみ 3 スマート農業			
	12月								
	1月								
	2月								
	3月								
学習方法	<p>【予習】 教科書をよく読んで理解しましょう。 【授業】 説明をよく聞き、実習などでは安全に留意しよう。疑問点などはその時間に解決しよう。 【復習】 その日に学習した内容はきちんと記録に残しましょう。</p>								
評価の 観点・ 評価 規準・ 評価 方法	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
	<ul style="list-style-type: none"> トラクタなどの各種作業機械の機能や運転操作及びそれらの基本的な構造を理解し、農業機械の効率的な利用に関する知識の定着を図る。 安全な運転操作や合理的な利用に必要な知識及び技能を習得する。 		<ul style="list-style-type: none"> 農業機械の特性を理解し、それらを適正に利用することで、農作業の効率化や労働負担の改善化に努める態度を習得する。 			<ul style="list-style-type: none"> 農業機械に関心をもち、機械の構造や作業上の特性を理解する。 安全に気をつけ積極的に授業に参加する。 			
	評価方法		第1・2学期	第3学期		年度末			
A：知識・技能（考査・小テスト、実習等）		A：40点	A：40点		1・2・3学期の平均				
B：思考・判断・表現（考査、課題レポート等）		B：30点	B：30点						
C：主体的に学習に取り組む態度（ノート・提出物・授業態度・実習態度等）		C：30点	C：30点						
備考									

食品製造

総合学科

教科	農業	単位数	4単位	対象	3年次	選択群	P群	
使用教科書	食品製造（実教出版）			副教材等			履修	必履修・ 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路		
加工食品の製造実習と、観察、実験、調査、記録などの学習活動を通して、原材料と加工食品の特性及び食品加工の原理を理解し、食品の加工と貯蔵に関する知識と技術を習得します。			<ul style="list-style-type: none"> 食品製造に必要な知識と技術が身に付く。 食品の特性と加工の原理が理解できる。 食品の品質と生産性の向上を図る能力が身に付く。 			<ul style="list-style-type: none"> 特に条件はありませんが、調理・製菓関係への就職、進学を考えている人に適しています。 施設、設備の関係上、15名が上限となります。 衛生管理上専用の実習服を購入する必要があります。 		
学習の年間計画	月	単元名	項目	学習内容				
	4月	第1章 食品製造の意義と動向	1 食品製造の意義	1 食品製造とその目的 2 食生活と食品製造				
	5月	第4章 食品加工と食品衛生	1 食品と食品衛生 2 食中毒	1 食品衛生とは 1 食中毒とは 2 食中毒の分類				
	6月	第6章 農産物の加工	5 果実類の加工	2 ジャム類（製造実習）				
	7月	第7章 畜産物の加工	2 牛乳の加工	1 牛乳の成分と加工特性 3 発酵乳・乳酸菌飲料（製造実習） 5 アイスcream（製造実習）				
	9月	第2章 食品製造の基礎	1 食品の分類	1 食品の分類法 2 植物性食品・動物性食品 3 加工食品				
	10月	第3章 食品の変質と貯蔵	1 食品の変質とその原因	1 生物的要因による変質 2 物理的・化学的要因による変質				
	11月	第6章 農産物の加工	2 食品の貯蔵法 1 穀類の加工	1 食品の貯蔵法の種類 5 菓子類（製造実習） 6 めん類（製造実習）				
	12月		4 野菜類の加工	4 パン（製造実習） 2 漬け物（製造実習）				
	1月	第5章 食品の包装と表示	1 食品の包装	1 食品包装の目的と種類 3 食品の包装形態と包装技術				
	2月		2 加工食品の表示制度	1 食品表示の意義と制度				
	3月							
	学習方法	<p>【予習】 学習内容の把握、準備物等の確認をしておきましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない内容は、下線等を引き、早めに質問しましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容について、きちんと記録を残しましょう。また、疑問点等があれば必ずその時間に解決するように心がけましょう。</p>						
評価の観点・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> 食品製造に関する基礎的な知識・技術を身に付け、品質管理や衛生管理による食品の提供の重要性を理解している。 		<ul style="list-style-type: none"> 製品の品質向上と衛生管理の徹底、安全性の確保、合理的な作業体系による生産性の向上などに関する課題に対し、科学的に捉えて合理的に解決し創造する能力を身に付けている。 			<ul style="list-style-type: none"> 食品産業が担う社会的役割を理解するとともに、食品製造の現状や今日的な課題を認識し、意欲的に解決しようとする実践的な態度を身に付けている。 		
	評価方法		第1・2学期	第3学期	年度末			
A：知識・技能（考査・小テスト、実習等） B：思考・判断・表現（考査、課題レポート等） C：主体的に学習に取り組む態度（ノート・提出物・授業(実習)態度等）		A：40点 B：30点 C：30点	A：40点 B：30点 C：30点	1・2・3学期の平均				
備考								

食品流通

総合学科

教科	農業	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	R②群	
使用教科書	食品流通（実教出版）			副教材等			履修	必履修・ 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路		
農産物を主とする食品の流通について学習し地域農業について考えます。また、農産物の特性を考えた流通や食品の保管に関する知識や技術を習得し、食品流通の重要性を学びます。			<ul style="list-style-type: none"> 農産物や農産物を原料とする食品の流通に必要な知識と技術を身に付ける。 食品の特性と流通構造を理解する。 食品の流通と管理の合理化を図る能力と態度を身に付ける。 			<ul style="list-style-type: none"> 流通関係、特に食品の流通・販売の仕事に就職する生徒に勧めます。 		
学習の年間計画	月	単元名	項目	学習内容				
	4月	第1章 現代社会と食品流通	1 流通の始まりと発展	1 私たちの生活と流通 2 自給自足、物々交換から市へ 3 近代的な流通の発展				
	5月		2 流通の働き	1 生産と消費のへだたり 2 物流、商流、情報流 3 流通と費用 4 流通を支えるしくみ				
	6月		3 食品流通の役割	1 生活に欠かせない食品流通 2 食品流通に求められるもの				
	7月	第2章 経済活動と食料	1 経済発展と食料消費	1 経済システムの基本 2 所得水準と食料消費				
	7月		2 世界の食料事情	1 増加する人口と食料生産 2 世界の食料需給 輸出する国、輸入する国 3 グローバル化する食品流通をめぐる諸問題				
	9月	第3章 食品流通のしくみと働き	3 日本の食生活、食料需給と自給率	1 日本の食生活 2 日本の食料需給と農産品貿易 3 日本の食料自給率				
	10月		4 私たちとりまくフードシステム	1 フードシステムのしくみ 2 フードシステムを構成する産業				
	11月		1 食品流通の特徴 2 食品流通のしくみ	1 商品の特徴 2 生産の特徴 3 需要の特徴				
	12月	第7章 食品マーケティング	3 価格の形成と流通経費	1 流通経路 2 流通の担い手（卸売業者） 3 流通の担い手（小売業者）				
	12月		1 マーケティングとは何か	1 価格の決定 2 販売価格の形成				
	1月		2 マーケティングの発展 3 マーケティング戦略の手法	1 マーケティングのはじまり 2 供給過剰とマーケティング 3 広がるマーケティングの意味				
	2月			1 マーケティング管理と4P 2 製品計画とライフサイクル 3 消費開発の実際				
3月								
学習方法	<p>【予習】 学習内容の把握、準備物等の確認をしておきましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない内容は、下線等を引き、早めに質問しましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容について、きちんと記録を残しましょう。また、疑問点等があれば必ずその時間に解決するように心がけましょう。</p>							
評価の観点・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> 食品の特性と流通構造に関する知識や技術を習得し、食品流通と管理の合理化について理解している。 		<ul style="list-style-type: none"> 農産物の特性にマッチした流通や保管に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現する能力を身に付けている。 			<ul style="list-style-type: none"> 農産物を主とする食品の流通について興味・関心を持ち、食品の流通と管理の合理化について探求しようとする実践的な態度を身に付けている。 		
	評価方法		第1・2学期	第3学期	年度末			
備考	A：知識・技能（考査・小テスト、実習等）		A：40点	A：40点		1・2・3学期の平均		
	B：思考・判断・表現（考査、課題レポート等）		B：30点	B：30点				
	C：主体的に学習に取り組む態度（ノート・提出物・授業(実習)態度等）		C：30点	C：30点				

生物活用

総合学科

教科	農業	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	T①群		
使用教科書	生物活用（実教）			副教材等		履修	必履修・ 選択		
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路			
園芸作物の活用に必要な知識と技術を学びます。また、園芸作物の活用法や特質を学ぶとともに、生活の質の向上や改善を図る能力と態度を養います。			<ul style="list-style-type: none"> 野菜や草花を小規模な農地で家庭菜園的な栽培を実施し、その利用方法を工夫する態度や技術を身に付ける。 フラワーデザインに関する基礎知識を身に付け、作品制作をしながらその技術や利用方法を身に付ける。 			<ul style="list-style-type: none"> 草花や野菜の栽培、それらを利用した装飾に興味がある生徒に勧めます。 フラワーデザインやブライダル系、理美容に興味がある生徒に勧めます。 			
学年間の計画	月	単元名	項目	学習内容					
	4月	第1章 生物活用の 意義と役割	1 生物活用の意義と役割	1 生物活用とは何か 2 生物活用の大切さ 3 私たちの暮らしと生物活用					
	5月	第2章 園芸作物の 栽培と活用	1 植物・園芸と人間生活	1 私たちの暮らしと園芸 2 植物・園芸がもたらす効用 3 植物・園芸の活用 4 植物を扱うさいの留意点					
	6月			第2章 園芸作物の 栽培と活用	2 草花の栽培と活用	1 草花の種類と特性 2 園芸デザイン 3 花壇の活用と管理 4 フラワーデザイン			
	7月					第2章 園芸作物の 栽培と活用	3 野菜・ハーブの栽培と活用培	5 室内園芸装飾 6 地域緑化、都市緑化 7 バリアフリーとユニバーサルデザイン	
	9月	第2章 園芸作物の 栽培と活用	4 ハーブの種類と特性 5 ハーブの栽培 6 ハーブの利用						
	10月			第2章 園芸作物の 栽培と活用	5 ハーブの種類と特性 6 ハーブの栽培 7 ハーブの利用				
	11月					第2章 園芸作物の 栽培と活用	6 ハーブの種類と特性 7 ハーブの栽培 8 ハーブの利用		
	12月	第2章 園芸作物の 栽培と活用	7 ハーブの種類と特性 8 ハーブの栽培 9 ハーブの利用						
	1月			第2章 園芸作物の 栽培と活用	8 ハーブの種類と特性 9 ハーブの栽培 10 ハーブの利用				
	2月					第2章 園芸作物の 栽培と活用	9 ハーブの種類と特性 10 ハーブの栽培 11 ハーブの利用		
	3月	第2章 園芸作物の 栽培と活用	10 ハーブの種類と特性 11 ハーブの栽培 12 ハーブの利用						
	学習方法			<p>【予習】 学習内容を把握し、準備物等の確認をしておきましょう。</p> <p>【授業】 授業の内容や実習の説明をよく聞き、理解に努めましょう。分からないことは早めに質問しましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容について、きちんとした記録を残しましょう。また、疑問等があれば必ずその時間に解決するよう心がけましょう。</p>					
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	<ul style="list-style-type: none"> 野菜や草花の種類や特徴、その基本的な栽培や利用方法について理解している。 園芸療法の知識や技術について理解している。 フラワーデザインに関する技術の習得に努め、適切に活用している。 		<ul style="list-style-type: none"> 園芸作物の栽培や利用方法について思考を深め、基礎的な技術を基に合理的に判断し、創意・工夫した作品制作に結びつけている。 		<ul style="list-style-type: none"> 園芸作物の栽培や利用方法について興味・関心を持ち、実習や作品制作に積極的に取組もうとしている。 				
	評価方法		第1・2学期	第3学期	年度末				
A：知識・技能（考査・小テスト、実習等） B：思考・判断・表現（考査、課題レポート等） C：主体的に学習に取り組む態度（ノート・提出物・授業態度・実習態度等）		A：40点 B：30点 C：30点	A：40点 B：30点 C：30点	1・2・3学期の平均					
備考									

地域資源活用

総合学科

教科	農業	単位数	2単位	対象	2年次	選択群	R①群
使用教科書	地域資源活用（実教出版）			副教材等		履修	必履修・選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
<p>農林業および農山村の魅力地域資源として活用することを学びます。またこれらの有用性について理解を深め、さらに地域資源を生かした活動に取り組むことでその知識と技術を習得します。</p>			<p>・農林業および農山村の魅力地域資源としてどのように活用するか考える力が身に付く。 ・地域資源を活用した活動に関する知識および技術が身に付く。</p>			<p>・特に条件はありませんが、農業自営、農学系への進学を考えている人に適しています。 ・農業に興味があり、体を動かすことが得意な生徒に適しています。</p>	
学年計画	月	単元名	項目	学習内容			
	4月	第1章 地域資源とは	1 地域資源とその活用	1 移り変わる農山村への眼差し 2 地域資源と地域資源活用とは			
	5月	第2章 農山村社会の変化と地域振興	1 農山村と都市の現状と変化	1 農山村と都市の現状と変化 2 農山村・都市の連携とSDGs			
	6月		2 地域活性化に向けた施策・取組	1 地域社会の現状と課題 2 地域づくりとは			
	7月	第3章 地域資源活用の意義と役割	1 地域資源の魅力と価値	1 地域資源の魅力 2 地域資源の発見・保全とその活用			
	9月		2 地域資源活用の実践と課題	1 農山村における方策 2 都市における方策			
	10月		1 地域資源の見つけ方と活用	1 地域資源の発見・活用・評価のサイクル			
	11月	第4章 地域資源の価値と活用	1 地域資源のマーケティングとブランドづくり 2 地域資源を活用したサービス	1 地域資源のマーケティング 2 地域ブランドづくり			
	12月			1 市場調査 2 SWOT分析			
	1月	第5章 地域と連携した活動	1 地域資源のマーケティングとブランドづくり 2 地域資源を活用したサービス	1 市場調査 2 SWOT分析			
	2月						
	3月						
学習方法	<p>【予習】 学習内容を把握し、準備物等を確認しておきましょう。 【授業】 学習内容の説明をよく聞き、理解に努めましょう。また、分からないことは早めに質問しましょう。 【復習】 その日に学習したことについて、きちんとした記録を残しましょう。また、疑問等があれば必ずその時間に解決するよう心がけましょう。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<p>・地域資源を活用するために必要な基礎的な知識、技術を身に付け、地域資源活用に関するプロジェクト学習を合理的に計画し、身に付けた知識、技術を適切に活用している。</p>		<p>・地域資源の有用性や特性、その活用方法を思慮し、農山村に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を適切に表現している。</p>		<p>・地域資源の生産や活用について興味関心を持ち、地域発展につながるよう取り組み、持続可能な農山村の振興や社会貢献に主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。</p>		
	評価方法		第1・2学期	第3学期	年度末		
A：知識・技能（考査・小テスト、実習） B：思考・判断・表現（考査、課題レポート等） C：主体的に学習に取り組む態度（ノート・提出物・授業(実習)態度等）		A：40点 B：30点 C：30点	A：40点 B：30点 C：30点	1・2・3学期の平均			
備考	<p>・農場の面積に限りがあるため、選択生が20名を超えると座学中心となる可能性が高い。</p>						

食と健康

総合学科

教科	農業	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	S②群	
使用教科書	食育のすすめ (マガジンハウス)			副教材等		履修	必履修・ 選択	
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路		
安全な農産物を栽培するのに必要な知識と技術を身に付けます。 健康で豊かな食生活を営む能力と態度を身に付けます。			<ul style="list-style-type: none"> ・実習を通して、野菜栽培の基礎を身に付けます。 ・食の大切さを理解し、子どもたちに食育を伝える知識を身に付けます。 ・食の検定3級合格を目指します。 			<ul style="list-style-type: none"> ・食の検定は、農業と家庭科が合体したような内容です。将来調理関係、保育関係を考えている人にも役に立つと思います。 ・実習もあるため、農作業に抵抗なく取り組めることが条件です。 		
学年間の計画	月	単元名	項目	学習内容				
	4月	子供の健康増進	旬の食材 栄養の働き	<ul style="list-style-type: none"> ・食育基本法制定の意義 ・五大栄養素 				
	5月		食事と生活	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食の重要性 ・インスタント食品の注意点 ・食の欧米化 				
	6月		日本の伝統的な家庭料理	調味料 味覚 日本食	<ul style="list-style-type: none"> ・ポン酢、だし、うま味の相乗効果 ・沖縄料理 ・味噌汁、魚介類 ・一汁三菜 			
	7月							
	9月	大人の食生活と健康管理	生活習慣病	<ul style="list-style-type: none"> ・植物性食品の機能 ・機能性成分 				
	10月		食中毒対策	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の安全性 ・殺菌方法 ・寄生虫感染対策 ・食品の保管方法 ・箸の使い方 ・衣食住 ・有機農法 ・フードマイレージ ・環境への配慮 				
	11月		食のあり方を考え直そう	生活習慣と礼儀作法	<ul style="list-style-type: none"> ・食糧増産技術 ・6次産業化 			
	12月			期待される農業	<ul style="list-style-type: none"> ・食糧増産技術 ・6次産業化 ・地産地消 ・食品廃棄物 			
	1月	食の歳時記	年中行事	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の意義と食文化 				
	2月							
	3月							
	学習方法	<p>【予習】 学習内容を把握し、準備物等を確認しておきましょう。</p> <p>【授業】 学習内容の説明をよく聞き、理解に努めましょう。また、分からないことは早めに質問しましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習したことについて、きちんとした記録を残しましょう。また、疑問等があれば必ずその時間に解決するよう心がけましょう。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	<ul style="list-style-type: none"> ・食品、栄養、健康等の関係性について理解し、自身の食生活で応用する能力や技術、態度を身に付ける。 		<ul style="list-style-type: none"> ・日本の良い食習慣や農業が果たす役割について子どもたちに伝えていく態度を育てる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・現代の食生活の問題点や農業、食品、栄養について興味関心を持ち、授業に取り組む。 			
	評価方法		第1・2学期	第3学期	年度末			
A：知識・技能（考査・小テスト、実習）		A：40点	A：40点	1・2・3学期の平均				
B：思考・判断・表現（考査、課題レポート等）		B：30点	B：30点					
C：主体的に学習に取り組む態度（ノート・提出物・授業(実習)態度等）		C：30点	C：30点					
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・農場の面積に限りがあるため、選択生が20名を超えると座学中心となる可能性が高い。 							

地域農業

総合学科

教科	農業	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	S②群
使用教科書	田園回帰 新規就農への道 (農文協)			副教材等			履修 必履修・ 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
愛媛県、八西地区の身近な事例を通して、産地形成や消費動向をはじめとする地域農業を取り巻くあらゆる条件について理解します。特に、経済的、社会的、自然的条件の変化が相互に関係することを理解させる。			<ul style="list-style-type: none"> ・日本一のカンキツ産地である愛媛県、中でも八西地区の農業に関する知識が身に付く。 ・愛媛県、八西地区の現状が理解できる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・特に条件はありませんが、八西地域での就農を考えている人に適しています。 ・地域の農家で体験学習があります。 	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	第0章 イントロダクション	1 新規就農者へ	1 新規就農の体験談・失敗談 2 新規就農者の現状と課題			
	5月	第1章 新規就農ノ ウハウ	1 先輩移住者より新規就農すること	1 研修から独立までのサポートの方法			
	6月		1 家族経営とは	2 家族労力によって暮らしを立てる農業			
	7月	第2章 家族経営を 引き継ぐ	1 集落営農組織	1 集落営農組織のメリット 2 後継者をいかに確保するか			
	9月			1 「産地=地域」の一員を育てる 2 JA の就農支援に求められるもの	1 JA の新規就農支援の先進事例 2 ブランド力が産地を救う		
	10月	第4章 JA の部会員 になる	1 女性就農への道	1 多様化する新規就農とそれへの支援の在り方を考える			
	11月	第5章 女性就農・半 農半を志す					
	12月	第6章 自伐型林業 への道	1 自伐型林業の広がり と就林支援	1 移住者への仕事づくりと地域への定着に向けた意識的な取組			
	1月						
	2月						
	3月						
学習方法	<p>【予習】 学習内容の把握、準備物等の確認をしておきましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない内容は、下線等を引き、早めに質問しましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容について、きちんと記録を残しましょう。また、疑問点等があれば必ずその時間に解決するように心がけましょう。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの住む地域に関心を持ち、積極的に授業に参加する。 ・現場実習や見学などに積極的な態度で臨む。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の現状を知り、地域が抱えている課題を把握し、課題解決について考える。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の現状及び、地域農業の現状を理解し、地域の農家が持つ技術を積極的に学ぶ。 		
	評価方法		第1・2学期	第3学期	年度末		
A：知識・技能（考査・小テスト、実習等） B：思考・判断・表現（考査、課題・レポート等） C：主体的に学習に取り組む態度（ノート・提出物・授業（実習）態度等）		A：40点 B：30点 C：30点	A：40点 B：30点 C：30点	1・2・3学期の平均			
備考							

農業と認証制度

総合学科

教科	農業	単位数	2単位	対象	2年次	選択群	I群
使用教科書	グローバルGAPガイドブック (横田コーポレーション)			副教材等		履修	必履修・ 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
生産者にとっても消費者にとっても安心・安全な農業、環境にも優しい農業について考えていきます。 特にグローバルGAPをはじめとした認証制度についての知識を身に付けます。			・実習を通して、安心して実習に取り組める農場整備を進めていきます。 ・座学では認証制度の種類や目的、農業の最新制度について学びます。 ・グローバルGAPの認証審査合格を目指します。			・将来農業関係に進みたいと考えている人、食の安全に興味のある人は選択することをお勧めします。 ・実習もあるため、農作業に抵抗なく取り組めることが条件です。	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	農業を取り巻く問題	農業と環境の関係	・農業と地球温暖化 ・農業のメリット、デメリット			
	5月		食料自給率	・日本人の食生活 ・農産物の輸入量と輸出量、TPP			
	6月		日本の農業	・農業従事者の高齢化 ・農作業中の事故			
	7月	安全な仕事環境 安心なものづくりに向けて	農業における取組 食品加工における取組	・グローバルGAP ・HACCP			
	9月	実習環境の改善 (グローバルGAP)	安全な農場づくり	・危険箇所の確認(斜面、段差、穴など)			
	10月		安全な農薬管理	・農薬散布の注意点・農薬の保管方法			
	11月		安全な農器具管理	・農機具の使用・農機具の点検方法			
	12月		安全な肥料管理	・肥料散布の注意点・肥料の保管方法			
	12月		安全な燃料管理	・給油時の注意点・燃料の保管方法			
	1月	農業の情勢	生産物の収穫	・収穫時の手順の確認と注意点			
	2月		消費者に安心して購入してもらうために	・選別場所の安全点検・適切な選別方法			
	3月		今後の課題 1年間に起きた農業の話題	・記録の整理、来年度への引継ぎ ・新制度、新技術等の把握			
学習方法	【予習】 学習内容を把握し、準備物等を確認しておきましょう。 【授業】 学習内容の説明をよく聞き、理解に努めましょう。また、分からないことは早めに質問しましょう。 【復習】 その日に学習したことについて、きちんとした記録を残しましょう。また、疑問等があれば必ずその時間に解決するよう心がけましょう。						
評価の観点・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	・グローバルGAPの農場管理規則について理解し、今後の生活に応用する能力や態度を身に付ける。 ・農作物栽培の基礎的な技術と安全な作業方法を身に付ける。		・実習内に潜むリスクを予想し、未然に防ぐ手段を模索し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。		・職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
評価規準・評価方法	評価方法		第1・2学期	第3学期	年度末		
	A:知識・技能(考査・小テスト、実習等)		A:40点	A:40点	1・2・3学期の平均		
	B:思考・判断・表現(考査、課題・レポート等)		B:30点	B:30点			
C:主体的に学習に取り組む態度(ノート・提出物・授業(実習)態度等)		C:30点	C:30点				
備考	夏休み等に企業へ見学に行く場合があります。						

農業と福祉

総合学科

教科	農業	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	U群	
使用教科書	農の福祉力で地域が輝く (創森社)			副教材等			履修	必履修・ 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路		
<p>農業の持つ福祉力とは何かを考え、新たな農の役割を探っていく授業を行います。 特に福祉事業所等と連携を図り、福祉と農業の関係の取り組みに関する知識・技術を身につけます。</p>			<p>・実習を通して、農業と福祉が協力した新たな取り組みの研究を進めていきます。 ・座学では農業や福祉の現状を学び、その連携事例や新たな知識・技術を習得します。</p>			<p>・将来福祉関係に就職する人、農業関係に従事する人に、農業や福祉に興味のある人にお勧めします。 ・実習もあるため、農作業等に抵抗なく取り組めることが条件です。</p>		
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容				
	4月	農と福祉の結びつきと可能性	<ul style="list-style-type: none"> 農と福祉の関係と農の福祉力のとらえ方 農の福祉力による効果 	<ul style="list-style-type: none"> 農業と福祉の関係 福祉から農への作用 農業活動のアンケート 就労訓練・地域交流への交流 				
	5月			<ul style="list-style-type: none"> 農から福祉への作用 農の福祉力の定義、 障害、心身、工賃への効果 				
	6月			<ul style="list-style-type: none"> 農のもつ福祉力の可能性 				
	7月	農福連携によって福祉力を高める	<ul style="list-style-type: none"> 農福連携によるステップアップ 農業の従事者・生産額の推移 	<ul style="list-style-type: none"> 農業の新たな機能の発揮、農業から農生業へ グリーンケアとしての農生業、新たな事業の実施主体 農福連携の目的と態様 農福連携の広がり 農業に携わる人々、農業生産額の推移 国民経済にみる農林水産業、明日の農業の確立 				
	9月	事例に見る農福連携の多様な展開	<ul style="list-style-type: none"> 農福連携の広がり 農福から農福+α連携へ 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉の語源と意味、農福連携における福の意味 障害種別の障がい者、障がい者数の実態 就業割合、不就業者の就業意欲、雇用形態 障がい者のメリット 農家等のメリット 地域のメリット 新たな職域と担い手の可能性 障がい者福祉事業所の取り組み 障がい者の取り組み分野での農業の位置づけ 農林水産省による支援 厚生労働省による推進 両省による共同の取り組み・地方自治体による実施 				
	10月			<ul style="list-style-type: none"> 障がい者福祉の現状 障がい者の就労状況 農福連携のメリット 				
	11月			<ul style="list-style-type: none"> 農業活動の取り組み実態 				
	12月			<ul style="list-style-type: none"> 国・地方自治体による農福連携の推進 				
	1月	事例に見る農福連携の多様な展開	<ul style="list-style-type: none"> 農福連携の広がり 農福から農福+α連携へ 	<ul style="list-style-type: none"> 農福連携の事例 農福から農福商工連携 				
	2月							
	3月							
学習方法	<p>【予習】 学習内容の把握、準備物等の確認をしておきましょう。 【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない内容は、下線等を引き、早めに質問しましょう。 【復習】 その日に学習した内容について、きちんと記録を残しましょう。また、疑問点等があれば必ずその時間に解決するように心がけましょう。</p>							
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> 農業と福祉の関係について理解し、今後の農福連携に応用する能力や態度を身に付けている。 障がい者等の立場になり農作物栽培の基礎的な技術と安全な作業方法を身に付けている。 		<ul style="list-style-type: none"> 福祉的な観点で実習内に潜むリスクを予想し、未然に防ぐ手段を模索する態度を身に付けている。 			<ul style="list-style-type: none"> 農業の生産や加工と福祉活動について興味関心を持ち、農業や福祉の現状や今日的な課題を認識し、意欲的に解決しようとする実践的な態度を身に付けている。 		
	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末	
	A：知識・技能（考査・小テスト、実習等） B：思考・判断・表現（考査、課題レポート等） C：主体的に学習に取り組む態度（ノート・提出物・授業(実習)態度等）		A：40点 B：30点 C：30点		A：40点 B：30点 C：30点		1・2・3学期の平均	
備考								